

教育・保育理念

・自分も友だちも大切にすることの育成・学びの芽の育成・自分の可能性や能力の発揮

重点項目

園児・保護者・職員・地域がつながりを持ち、お互いを認め合い、共に育ちあう中で、自己肯定感を育み、自信を持って主体的に活動する力を育てる

令和5年度重点目標

- ・主体性と自己肯定感を育む
- ・体をいっぱい動かし、しなやかに健康な体づくりを行う
- ・こども園・幼稚園・小学校が連携し、学びと育ちをつなぐ
- ・地域との交流を通して、地域に根ざしたこども園を目指す
- ・職員の資質向上をめざす

重点目標	重点目標に向けた具体策	評価項目	自己評価	こども園関係者評価	
主体性と自己肯定感を育む	園児自身が気づき、考え、行動できる学びの場を設定する	・「主体的・対話的・深い学び」を実現する実践を展開する ・あそびの中で思考力や集中力を養い、成功体験や失敗体験から粘り強さなどを育てる	A	A A A A A A	A A A A A A
	一人ひとりの園児にあわせた指導・支援をおこなう	・子どもの発達過程に応じ、個人差に配慮しながら、発達を保障する ・子どもの一日の生活の連続性及びリズムの多様性に配慮した教育・保育内容を工夫する	A		
	クラス活動での認め合いの他、戸外での異年齢交流や職員が連携しながら異年齢での共同制作や合奏等を行い、園児が自己発揮をし、異年齢間でも認め合える活動を展開し、自己肯定感を高める	・大人との愛着関係や安心感のもと、人を信頼生きていく力の土台を形成する ・園児の表情や行動を温かく見守りながら、思いを受け止め自尊感情を育てる ・人との関わりを通して、お互いを尊重し合えるよう人権を大切にすることを育てる	A		
体をいっぱい動かし、しなやかに健康な体づくりを行う	家庭と連携し、基本的な生活習慣の定着を図る	・一人ひとりの家庭状況を理解し、園児が安心して心地よく過ごせるようにする	A A A	A A A	
	保護者へ教育・保育内容をタイムリーに発信できるよう写真・動画等活用していく	・園児の健康状態を把握し、体調不良や怪我については保護者と連携し、適切に対応する ・保護者に教育・保育内容や子どもの姿を工夫して伝え、子どもの成長を共有する			A
	園児の興味や関心、発達、季節に応じた環境の中、友だちと一緒に戸外あそびや運動あそびで体を動かし、あそぶ楽しさを味わえるようにする	・園児の興味・関心に基づき、遊びこめる環境を整える ・自然とのふれあいや実体験を大切にし、生活や遊びの中での学びを保障する ・園児の意欲や探求心などを引き出す、保育教諭の関わりを大切にする			A
こども園・小学校が連携し、学びと育ちをつなぐ	小学校の授業を見に行ったり、研修会に参加して職員同士の交流をしたりし、小学校の教育を学び、育ちを繋げる	・一人ひとりの園児の育ちについて、小学校と情報の共有をし、円滑な接続につなげる ・小学校児童と年長児との交流、小学校・民間こども園との意見交流等、連携を通して教育・保育の質の向上を図る ・乳幼児期に育てたい力が小学校以降の学びにつながるような指導計画を作成し実践する	A A A	A A A	
地域との交流を通して、地域に根ざしたこども園を目指す	地域との交流、行事への参加の意義を意識し、計画的に行う	・園の機能を発揮し、地域の特性を生かした教育・保育内容を実施する ・地域の関係機関や団体等と連携、協力を図り、適切な支援を行う ・地域の人材の積極的な活用や情報提供を実施し、地域とともに子育てを進める	B	B	
職員の資質向上をめざす	全体的な計画(教育・保育課程)を共通理解して教育・保育実践を行い、振り返りと評価を重ねて教育・保育の質の向上を図る 主体性を育むような教育・保育を実践していくために、研修や公開保育を実施し、学び合い、職員の資質の向上を図る	・全体的な計画(教育・保育課程)や指導計画について、職員同士が共通理解する ・教育・保育実践を振り返り、自己評価を通して教育・保育の質の向上を図ると共に専門性を高める ・研修や公開保育、実践などを通じ専門性や倫理性の向上に努めるとともに、自己研鑽を積極的に行う ・職員同士の交流や情報交換を円滑に行い、園児の学びと育ちをつないでいく	A A	A A	

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法	園長より
保護者と子どもの育ちや生活を共有し、自己肯定感をより高め、園児が自信を持って行動したり、言葉等で自分の思いや意見を伝えたり、主体的に学ぶ力を育てていく。	・クラス活動や異年齢交流で園児が自己発揮をし、認め合える活動を展開し自己肯定感を高め、自信をもって行動できるようにする。 ・乳児期から様々な楽しい活動を体験する中で、物の名前や気持ち等を言語化して伝え、主体的に考えたり行動できるように促していく。 ・日々自分の思いや意見を言う機会を大切に、思い、意見を受け止めながら、自信を持って発言できるようにする。 ・保護者へ生活習慣の大切さや教育・保育内容、それにより育つ力をタイムリーに発信するとともに、一人ひとりの育ちを丁寧に伝え、共に子育てしていく。	今年度は新型コロナウイルスが5月に5類となり、感染症対策に気を付けながら、今までできなかった交流や行事の開催など、少しずつ再開できた1年でした。異年齢や小学生との交流も行うことができ、その経験の大切さを改めて実感しました。また重点目標である自己肯定感と主体性について、職員一人丸となって取り組んでまいりました。公開保育の実施や園児への関わり、園内研修等様々な研修に取り組み、職員の資質向上にもつながりました。中学校校区の公民こども園、3小学校で5歳児から小学校1年生への接続について学びあう検討会を通して地域が繋がって子どもの育ちを考えたことの大切さを実感しました。今年度も、人と人との繋がりがいい、認め合い共育あうことを大切にしながら、自分の思いを生かさんと表現し、主体的に活動できるように教育・保育を展開し、取り組んでいきたいと思っております。
小学校・地域のこども園や地域との交流を工夫して実践し、園児や地域の子どもの成長を見守り、継続的に共に育てていく。	・小学校と園児との交流は、内容や回数を年当初に計画しできるようにしていく。地域との交流はニュース交換や制作物の贈り物等工夫して実施する。園庭開放やリフレッシュ預かりを実施し、地域の子育て家庭への支援を行う。こども園と小学校の接続検討委員会、園と小学校の公開授業(保育)や検討会を通じて互いの教育・保育の理解を深め、接続カリキュラムの作成を進めていく。	